

ガーランド 親父の

昔々、マツジローという王様が治める国があった。街の広場には天にそびえる教会の塔があり、立派な鐘が先端に吊るされていた。しかし、その鐘の音を聴いた者は残念ながら誰もいなかつた。七十三歳になるマツジロー王も聞いたことがなかつたし、二世代前の祖父の時代に一度だけ鐘の音が鳴つた、という話を聞いたことがあつただけだ。その時の話によると、クリスマスの贈り物に神様が大層喜んで、鐘を素晴らしい音色で打ち鳴らしてくれたそうだ。「よしつ、ワシが王様のうちになんとしてでもあの鐘を鳴らしたいものだ」と、王様は誓いを立てたのだった。

村外れには王様の誓いなど関係のないマナブとユズルという、貧しい親子が住んでいた。ユズルは父に「今年こそ賑やかなクリスマスの教会にぜひ連れて行ってほしい」と目を光らせてお願いをしていた。父親のマナブは懸命に働き、なんとか贈り物の貨幣を手に入れることができ、街の教会に連れて行くことにした。さて、約束のクリスマス。

二人にとって街は遠かつたので、前夜に出発することに。

雪が降り続くイブの夜、二人は街へ向かったが、途中に女人人が倒れていた。そのままにしていると凍え死んでしまうかもしれない。父親のポケットには神様に捧げるために持っていた銀貨と銅貨が入っていた。「俺はこの人を助けるために銀貨を持って近くの村に行く。申し訳ないが、お前はこの銅貨を持つて一人で教会に行ってくれ」とユズルに言った。「父さんだつてあんなに行きたがつていたのに」とユズルは悲しそうだつた。「いいから、もう行くんだ」と父は手を離した。

賑わう街の教会にユズルは一人でたどり着いた。教会内では王様のススメもあり、みんなこれでもかというくらいの立派な贈り物を神様に捧げていた。眩しいばかりの宝石や銀の食器、山になつた金貨を見て、誰もが素晴らしい贈り物に満足していた。「今年こそは神様も鐘を鳴らしてくれるに違いない」と信じたのに、鐘は鳴らなかつた。それを見て、最後に王様が自分の命の次に大切にしている金の冠を差し出した。「これで鐘も鳴るだろう」と王様も耳を傾けたが、塔の鐘は鳴らなかつた。

人々は王様の金の冠でもダメだったことにため息をつきながら、「もう永久に鳴ることはないだろう」と諦めて帰りかけた。すると、塔の鐘が美しく「キーン、コーン」と鳴り響いて来たのだった。そんなはずはないといみんなは振り返った。そこには銅貨一枚を

神様に捧げようとしていた少年の姿があつた。

ユズルは父と倒れていた女人の人を王様や

みんなに話してあげた。父が助けて連れて行つた

女人人は大丈夫だったろうかと思った時、さらに

塔の鐘が鳴り響いた。神様はすべてを

お見通しだと、感激した王様は親子の為に

お祝いの金貨を持ち帰らせた。その夜、

王様であるマツジローは愛飲している

『しまつちゅ伝蔵』を部下に振舞いながら話をした。

私の贈り物にはあの親子のような純粹な「愛」や

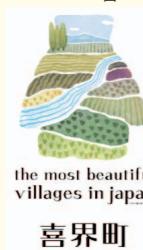
「真心」が欠けていたようだと。さあ、みんな!

善き行いで、来年も神様に鐘を鳴らしてもらうぞ!

「鐘の音」に乾杯!!



25度
好評発売中



くろちゅう 喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
900ml(25度) 1800ml(25度) 1800ml(25度)
応援しています。



<http://www.kurochuu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

常圧蒸留
でんぞう
昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまつちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

しまつちゅ伝蔵
でんぞう

